

取扱説明書

System 215 System 15
System 12 System 10
System 8 System 2

TANNOY®
**STUDIO
SERIES**

このたびはタンノイSTUDIO SERIESスピーカーシステムをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前にこの説明書を良くお読みになり、正しくお使い下さい。なお、お読みになった後は、保証書等と一緒に大切に保管して下さい。

目次

設置の前に	3
設置上の注意	
接続.....	4~5
ノーマル接続	
バイ・ワイヤリング	
調整.....	6~8
HF ENERGYの調整	
LF WINDOWの調整	
リスニングポジション	
スピーカーユニットの構造とその名称	8~10
高域 (HF) ユニット	
低域 (LF) ユニット	
仕様.....	11
ティアック・サービスエリア	裏表紙

設置の前に

本システムは“バイ・ワイヤリング”対応になっていますが、入力ターミナルの設定は“ノーマル接続”状態（位置）になっています。

バイ・ワイヤリング接続をする場合には、各チャンネルと各スピーカーをつなぐ“+・-”が一对になったスピーカーケーブルが必要になります。

いずれの接続に於ても、使用するケーブルは断面積が2.5mm²以上のものをお勧めします。

■設置上の注意

設置には次の点に留意して下さい。

- 設置場所及びマウント台の構造
- パワーアンプからスピーカーへの接続

設置場所及びマウント台の構造

設置する場所はスピーカーの性能に直接的な影響を与えます。本システムの性能を十分に引き出すには、堅固な台に、合板パネルに接触する4個のパッドに乗せる形で設置して下さい。

マウント台の性質もまた微妙に音質に影響します。狭い支持面に大きな重量が集中して掛るようにマウントすると、音響状態の良くない部屋で起こる50Hz～150Hz帯域の低周波干渉を軽減し、全体的に明るい音感を得ることができます。

ゴム等の柔らかいパッドを使うと、100Hz～200Hzのエナジーが増えて温かい感じの音になり、高音が抑えられたようになります。

本システムを壁にマウントする際はフロントパネルが壁面と同レベルか、15mm程壁面から出ている必要があります。壁面より奥にフロントパネルが来た場合には、回折現象を生じさせタイムレスポンスを劣化させます。壁にマウントする場合でも、上記と同様に設置して下さい。

パワーアンプからスピーカーへの接続

スピーカーとパワーアンプとの接続には次の二通りあります。

1. ノーマル接続

パワーアンプとスピーカーを“+・-”一对のスピーカーケーブルで接続。

2. バイ・ワイヤリング接続

パワーアンプとスピーカーを“+・-”一对のスピーカーケーブル2組で接続。

ノーマル接続の際の入力ターミナルは、“HF”又は“LF”表示側のいずれか一方に、+・-を合わせて正しくケーブルを接続して下さい。

バイ・ワイヤリング接続は、ケーブルの数がノーマル接続の倍になりますが、音質の向上がはかられます。バイワイヤリングは高・低周波電流が2組それぞれのケーブル間に分割されるため、抵抗ロスやリアクティブコンポーネントに起因する逆電位差が複雑にケーブルの中で作用しあうことがありません。

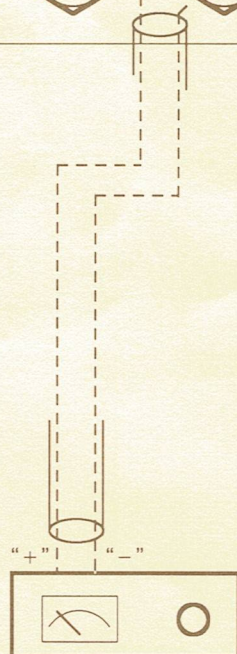
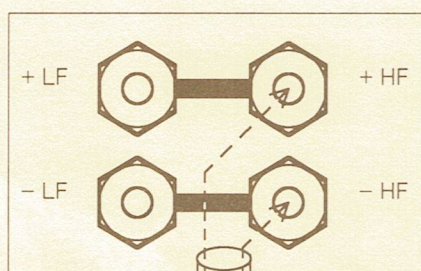
☞ 本システム本体側の“TANNOY”ロゴバッジは、自由に回転しますので、本システムを横置きにセットした際にも回して向きを合わせることができます。

接続

■ ノーマル接続

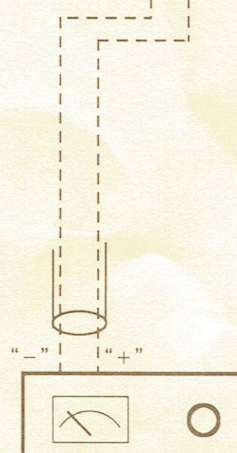
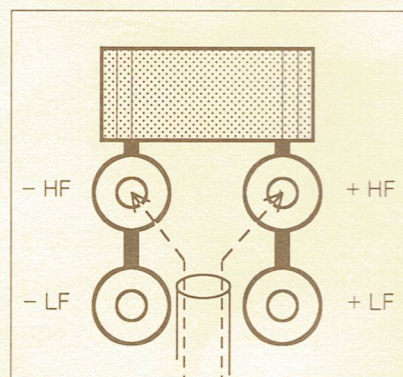
入力ターミナルの〔+〕（赤）及び〔-〕（黒）端子間を連結しているピン“ショートピン”をそのままにして、本システムとパワーアンプの端子間をスピーカーケーブルで接続します。

適応機種：System 2, System 8



パワーアンプ

適応機種：System 10, System 12
Sysrem 15, System 215

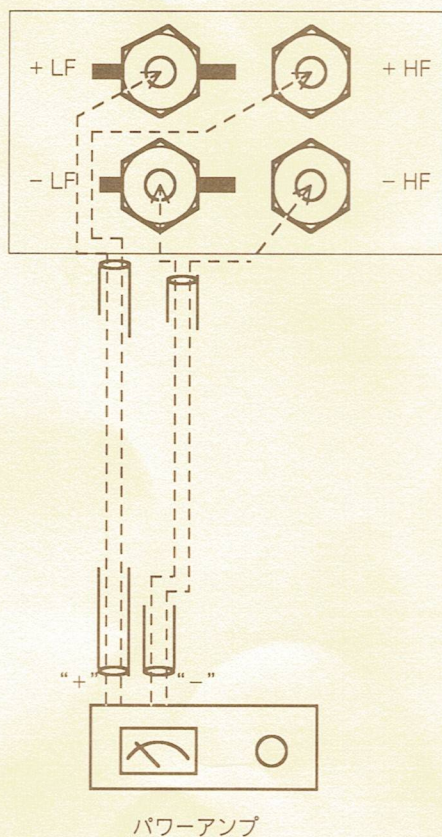


パワーアンプ

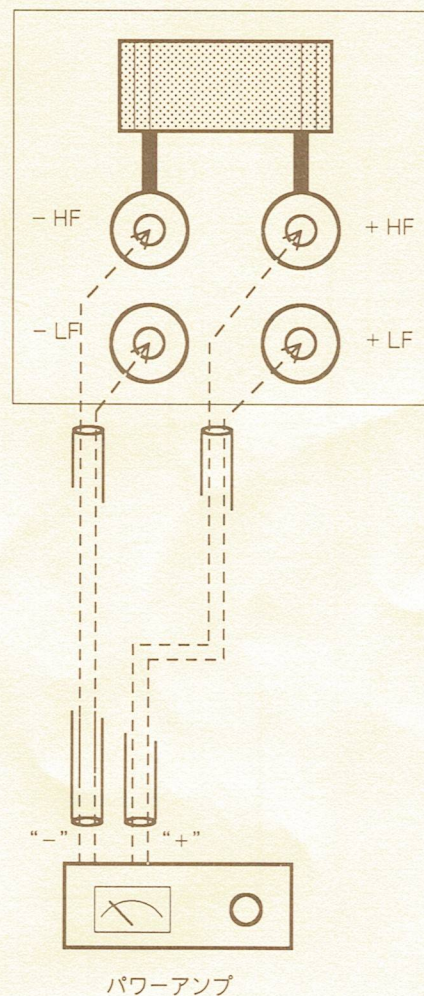
■ バイ・ワイリング接続

入力ターミナルの〔+〕（赤）及び〔-〕（黒）端子間を連結しているピン“ショートピン”をオープン状態にし（端子を緩めてピンをスライドさせ、ピンが端子間でショートしていないことを確認）、本システムとパワーアンプの端子間をスピーカーケーブルで接続します。

適応機種：System 2, System 8



適応機種：System 10, System 12
System 15, System 215



【ご注意】

- ☞ 接続の際はパワーアンプの電源を切り、メインボリュームウムを絞ってください。
- ☞ バイ・アンプシステムにて本システムをドライブする場合は、入力ターミナルの〔HF +〕と〔LF +〕、〔HF -〕と〔LF -〕は絶対にショートさせないでください。（アンプが発振し破損することがあります）

- ☞ 入力ターミナルの接続にバナナプラグ等を使用すると容易に接続できます。



- ☞ System 215は入力ターミナルを前面及び背面に備えています。

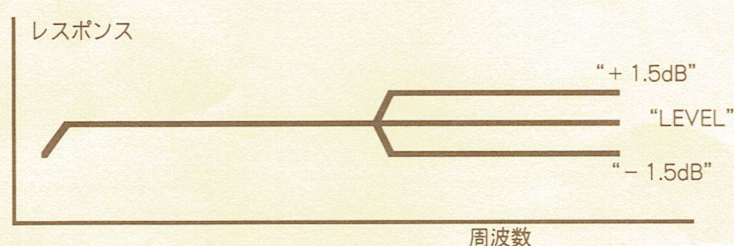
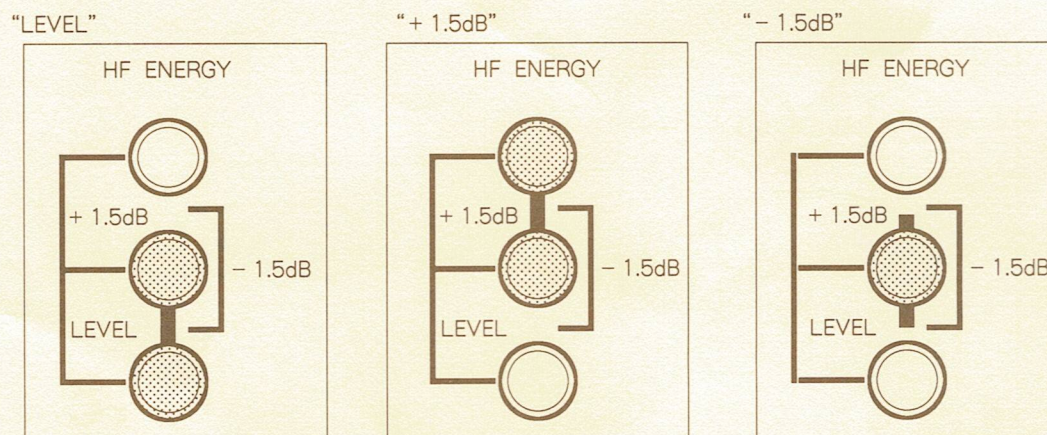
調整

■ HF ENERGY の調整

本システムの“HF ENERGY”を下図のようにセットすることにより、中高音域のレスポンスを調整することができます

端子を緩めて“ショートピン”を図示の位置にスライドさせ、再び端子を締めつけます。

適応機種 : System 10, System 12
Sysrem 15, System 215



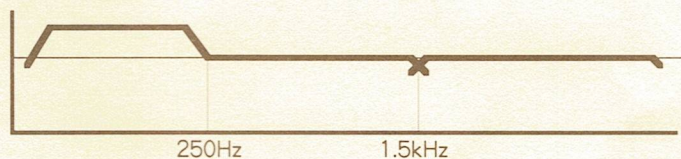
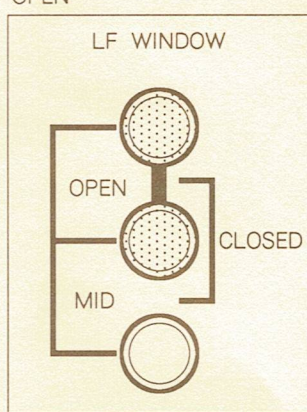
- System10は2.3kHz以上、System12, 15, 215は1.5kHz以上の帯域にてレスポンスが増減します。

■ LF WINDOW の調整

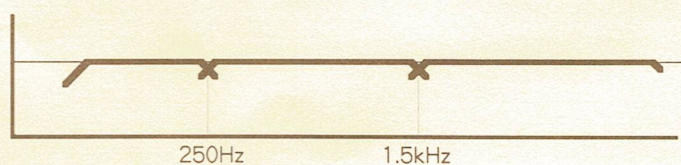
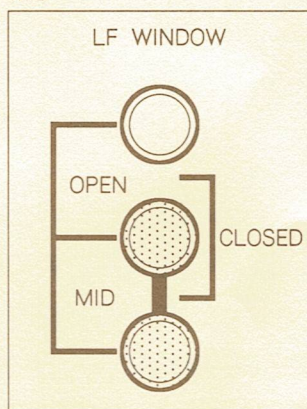
(適応機種 ; System 215 のみ)

System 215の“LF WINDOW”は、下図のように“ショートピン”を接続することによりネットワークのクロスオーバー周波数が切り替わり、各ドライブユニットに入力する信号の周波数帯を変え、2way又は3wayとして使用出来ます。

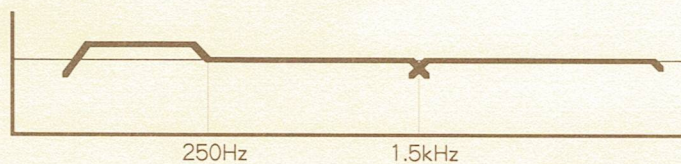
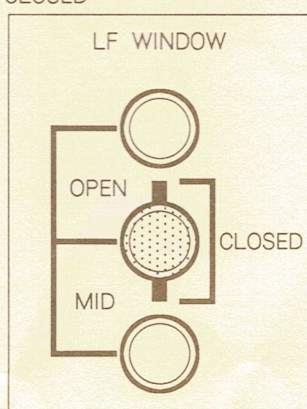
- ① 2 way構成で250Hz以下がダブルウーハー
“OPEN”



- ② 3 way構成
“MID”

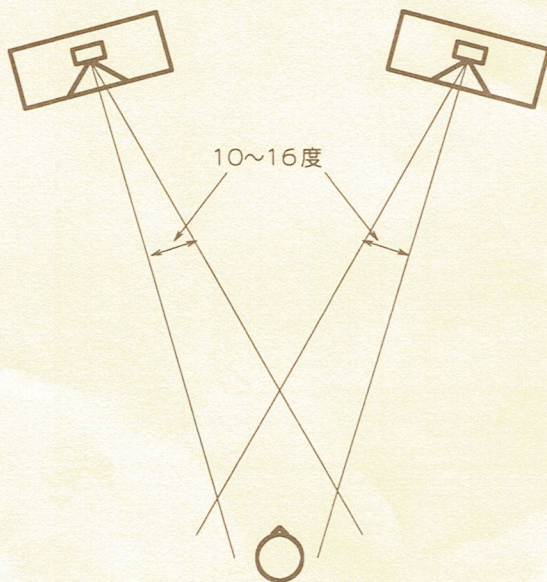


- ③ 2 way構成で250Hz以下のダブルウーハーの量を少しカット
“CLOSED”



■リスニングポジション

コンソールを前にしてのリスニング位置が、同軸ユニットの軸から約10~16度になるよう本システムを設置して下さい。高周波帯域の情報を最も幅広くキャッチできる状態と言えます

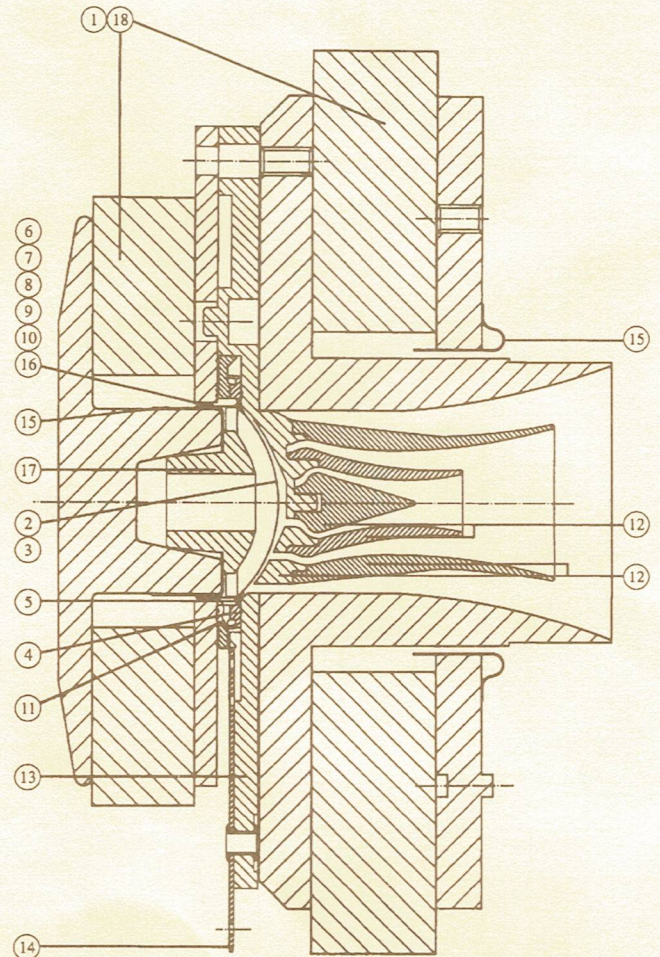


2本のスピーカーの間隔は、コントロールルームの広さにもよりますが2m~5mにします。また、壁、床あるいは天井からも距離をとるようにして下さい。スピーカーからリスニングポジションまでの距離は、スピーカー間の距離よりも多少長くして下さい。

【ご注意】

スピーカー間の距離を余り小さくとると充分なステレオ感が得られず、逆に距離を開け過ぎるとステレオイメージの真ん中に空白ができてしまいます。

●高域 (HF) ユニット



(1) ツイン・マグネット・システム

HFホーン（ウエーブガイド）により、LF磁気回路を構成する必要がなく、個々に最適な磁束を得ることが可能。

(2) ジュラルミン・ダイアフラム

大変軽くしかも、振動板として極めて優れている。特に25kHz以上でも滑らかな特性を確実に引き出す。

(3) スカーテッド・ダイアフラム

ダイアフラムと一体成型されたスカート部により、ボイスコイルを振動方向軸上の正しい位置に保つ。

とその名称

(4) ニトリル・ラバー HF サラウンド

新素材ニトリルラバーは設計どおり正確に成型され、連続的な振動によるストレスや材料寿命に関しても心配なく HF 振動板のサラウンドエッジとして最適。

(5) ナロー・サラウンド

サラウンドエッジのいかなる共振も 25kHz 以上になるよう、幅の狭いエッジ。

(6) ポリアミド・ワイヤー・インシュレーション

ポリアミドによるコイル線材の絶縁は、ハイパワー駆動時の高温にも万全。

(7) アルミニウムコイルワイヤー

ボイスコイルに低質量・低インピーダンスのアルミ線を使用。ダイアフラムは細かな信号の変化にも確実に応答。

(8) コッパークラッド・アルミニウム・ワイヤー

ボイスコイルには銅コーティングアルミ線を使用。端末ハンダ処理が容易で確実、アルミニウムを酸化から保護し信頼性を向上。

(9) レキュタンギュラー・ワイヤー

断面が角型の線材をボイスコイルに使用。丸型断面の線材に比べ、線間が密になりキッチリとコイルが巻け、低インピーダンスのボイスコイルを実現。

(10) グラスファイバー・コイル・フォーマー

コイルを巻きつける芯材にグラスファイバーを採用。大変軽く堅牢で非吸湿材のため、湿度の影響を受けにくく、温度特性も安定。

(11) ベリリウムコバーリードアウト

コイル端末からのコイル引き出し線にベリリウム

銅線材を使用。優れた導電率と高い柔軟性があり安定した伝送特性と信頼性を実現。

(12) キャスト・モーデッド・ウェイブ・ガイド

新開発のウェイブガイド内部は超精密成型により作られています。このウェイブガイドにより正確な球面波が作り出され、優れた高域位相特性を実現。

(13) セルフ・センタリング HF アッセンブリー

完全に調整されたアッセンブリーがドライバーだけで容易に交換でき、迅速なサービスを実現。

(14) ファスン・コネクター

ハンダ付け不要、サービスの向上、接続の信頼性向上。

(15) コパー・キャップス・オン・ポール

ポールピースを銅板で覆い、安定均一な磁界を作り出します。コイルのインダクタンスを減少、HF エネルギーを確実にコントロール。またコイル発熱による影響や、高調波歪み、混変調歪を低減。

(16) マグネチック・ギャップ・クーラント

驚異的にコイルの周辺の熱伝導率を向上させ、ハイパワー駆動を実現。

(17) HF リア・キャビティー・クーラント

HF 振動板背面に設けられた空間は HF 部の駆動システムの信号に対する正確な追従性を実現。高域再生音の色づけを排除。

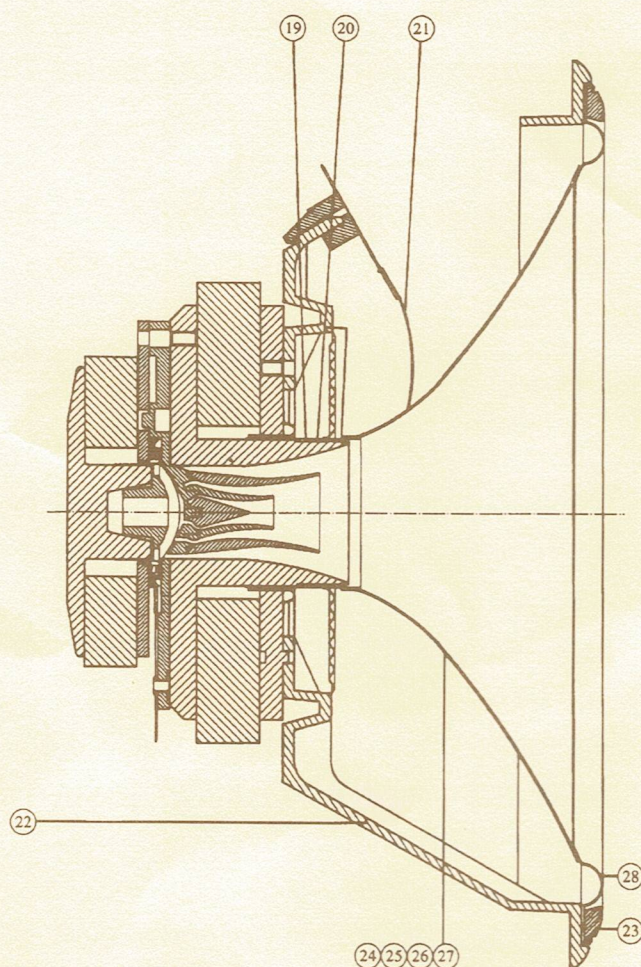
(18) アンイソトロピック・マグネット

同位性サマリウムフェライトマグネットを採用。オリエンテーションを完全に施したマグネットにより強力で安定した磁界を発生。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
SYSTEM 2		○	○			○								○		○		○
SYSTEM 8	○	○	○		○	○						○		○		○		○
SYSTEM 10	○	○	○		○	○						○		○		○		○
SYSTEM 12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SYSTEM 15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SYSTEM 215	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

スピーカーユニットの構造とその名称

●低域（LF）ユニット



(19) アルミニウム・コイル・フォーマー

低域用ボイスコイルには軽く堅牢なアルミニウムをコイル用芯材に採用。ハイパワー駆動時のコイル発熱に対してもすぐに放熱、安定した性能。

(20) ヒート・バリア

コイル部からの発熱を遮断し、熱の影響から振動板（コーン）やサスペンションを保護。

(21) ボイス・コイル・リードアウト・ブレード

導電性に優れ、コイル接合部とのストレス、材料疲労の少ない線材として引き出し線に採用。

(22) ベンテッド・シャーシー

サスペンション後部からの空気の吹き出しによりボイスコイル部の空冷効果を高め、振動板背面の波動によるシャーシーとの反射を低減する新開発のダイキャストフレーム。

(23) デイフランクシオン・リング

高域の波動伝播にたいし、低域の回折や反射波の影響を最低限に抑制。

(24) ポスト・エッチド・ポリオレフィン

System2,8,10,12のLF用振動板にポリオレフィンコポリマー材を採用。

(25) アベックス・トリートメント

低域の放射特性を改善、中域の拡散特性を向上。

(26) エアドライ・フェルティング

新開発の空気乾熱によるペーパーコーンの最終処理方法は、優れた振動板の特性を実現。

(27) コーン・プロフィール

最適条件の硬度に設計され、独特のハイポボリックウェーブガイドに接続。

(28) ニトリルラバーLFサラウンド

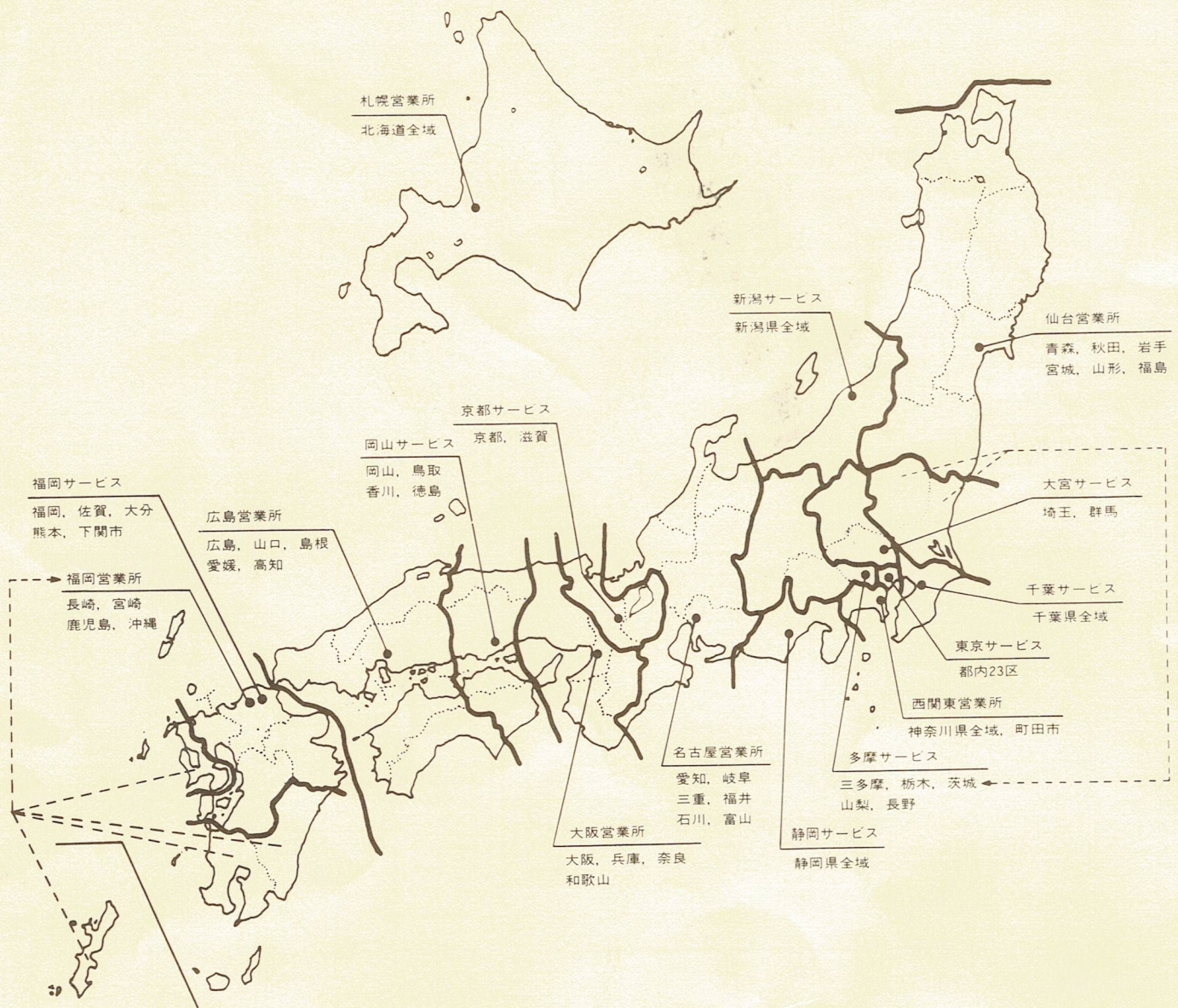
振動板の動きを支えるシステムの硬度を上げることなく、最適の音響効果が得られる新素材。ハイパワー駆動時にも安定したリニアな振動板の往復運動を実現。

	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
SYSTEM 2			○			○				○
SYSTEM 8			○			○			○	○
SYSTEM 10			○	○	○	○			○	○
SYSTEM 12	○	○	○	○	○	○			○	○
SYSTEM 15	○	○	○	○	○		○	○	○	○
SYSTEM 215	○	○	○	○	○		○	○	○	○

仕様

	SYSTEM 215	SYSTEM 15	SYSTEM 12	SYSTEM 10	SYSTEM 8	SYSTEM 2
使用ユニット	新開発 15インチ同軸2ウェイ 15インチ ウーハー	新開発 15インチ同軸2ウェイ	新開発 15インチ同軸2ウェイ	新開発 10インチ同軸2ウェイ	新開発 8インチ同軸2ウェイ	ディスクリート2ウェイ 1インチ ツィター 6.5インチ ウーハー
エンクロージャー 型式	独立2室バスレフ	バスレフ	バスレフ	バスレフ	バスレフ	バスレフ (リアポート)
能率 (1w/1m. 1kHz)	101 dB	98 dB	96 dB	94 dB	93 dB	90 dB
最大許容入力	750 W	600 W	450 W	250 W	200 W	150 W
連続許容入力	500 W	400W	300W	150W	120 W	100 W
入力インピーダンス	4~8 Ω	8 Ω	8 Ω	8 Ω	8 Ω	8 Ω
高調波歪率 (%)	0.5以下	0.5以下	0.5以下	0.5以下	0.5以下	1.0以下
クロスオーバー周 波数	1.5 kHz, 250 Hz	1.5 kHz	1.5 kHz	2.3 kHz	2.3 kHz	3.0kHz
周波数特性 (± 3dB)	35Hz ~ 25kHz	38Hz ~ 25kHz	44Hz ~ 25kHz	46Hz ~ 25kHz	48Hz ~ 25kHz	55Hz ~ 25kHz
エンクロージャー 材質	36mm厚 MDF 及び特殊ダンブ材に よるツィンラミネー ト加工 20.6mm厚 MDF	36mm厚 MDF 及び特殊ダンブ材に よるツィンラミネー ト加工 20.6mm厚 MDF	30mm厚 MDF 及び特殊ダンブ材に よるツィンラミネー ト加工 20.6mm厚 MDF	30mm厚 MDF 及び特殊ダンブ材に よるツィンラミネー ト加工 20.6mm厚 MDF	30mm厚 MDF 及び特殊ダンブ材に よるツィンラミネー ト加工 20.6mm厚 MDF	20.6mm厚 MDF 及び18mm厚 高圧 縮パーティクルボード
エンクロージャー 寸法	906 × 786 × 555	840 × 550 × 440	645 × 420 × 290	560 × 365 × 290	460 × 300 × 230	402 × 224 × 241
重量 (kg/台)	85	45	26	19	12	6.5
その他	Lch, Rch の別あり	*	*	*	*	防磁型、ペア梱包

TEAC・サービス・エリア



ティアック株式会社

営業部 ☎ (0422)52-5071

〒180 東京都武蔵野市中町1-19-18 武蔵野センタービル

技術的なお問合わせ

AV技術相談室 ☎ (0425)60-7761

〒208 東京都武蔵村山市伊奈平2-11-1

サービスに関するお問合わせは、最寄りの営業所等へご連絡ください。
営業所にはサービス・センターが併設されています。

札幌営業所 ☎ (011)521-4101代
仙台営業所 ☎ (022)227-1501代
新潟サービス ☎ (025)245-0103
大宮サービス ☎ (048)642-4551代
多摩サービス ☎ (0425)60-8918
東京サービス ☎ (03)3592-1827
千葉サービス ☎ (043)255-1281
西関東営業所 ☎ (0427)51-6771
静岡サービス ☎ (054)238-2431
名古屋営業所 ☎ (052)702-3100代
京都サービス ☎ (075)871-8730代
大阪営業所 ☎ (06)384-5201代
岡山サービス ☎ (0862)25-8601
広島営業所 ☎ (082)294-4751代
福岡営業所 ☎ (092)431-5781代
福岡サービス ☎ (092)936-5672
サービス一課 ☎ (0425)60-8918

〒064 札幌市中央区南7条西2-2 くぼたビル
〒980 仙台市青葉区1番町2-5-5 中央ビル
〒950 新潟県新潟市本馬越1-4-11 黒井ハイツ
〒330 大宮市三橋2-846
〒208 東京都武蔵村山市伊奈平2-11-1
〒100 東京都千代田区永田町2-10-7 星ガ岡会館
〒260 千葉市中央区椿森1-21-13 清水ビル
〒229 相模原市千代田1-3-1 M1ビル
〒422 静岡市高松1-12-1 寿道ハイソ105号
〒465 名古屋市中東区上社5-406
〒616 京都市右京区常盤窪町19 西垣ビル
〒564 吹田市垂水町3-34-10
〒700 岡山市新保1142-6
〒730 広島市中区西川口町13-19
〒812 福岡市博多区東光2-2-24
〒811-22 福岡県粕屋郡志免町志免1041
〒208 東京都武蔵村山市伊奈平2-11-1

営業所またはサービス・センターの電話番号や住所などは、予告なく変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。